

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立晴海中学校

学校の教育目標

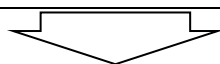
個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい、心身ともに健康で、豊かな人間性・確かな学力・創造性を備えた生徒の育成を目指す。そのために本校の教育理念として「共生」を掲げ、以下の目標を設定する。 教育理念 共生 LIVE TOGETHER MAKE A COMMUNITY 教育目標 ○健やかな人 ○思いやる人 ○考える人 ○創造する人
--

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・生徒一人一人に応じた指導の充実 ・学習意欲の向上と学習習慣の定着 ・夏季補習教室等を活用した学習機会の充実 ・ICTの活用と情報教育の推進 ・国際性を育む教育の推進

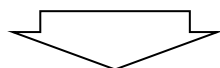
令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	1年生の校内平均正答率は58.5%（全国平均正答率の61.3%）で、「我が国の言語文化に関する事項」が69.8%（全国平均正答率79.1%）と大きく下回っている。2年生の校内平均正答率は67.4%（全国平均正答率65.1%）で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が69.7%や71.3%と下回っている。3年生の校内平均正答率は67.0%（全国平均正答率67.9%）、「読むこと」が67.2%（全国平均正答率68.9%）と下回っている。	1年生は文章を書くこと、2年生は、文法・語句に関する事項、3年生は漢字の書き取り、文書を読むことをもとに文章を書くことに苦手意識があると考ええる。特に1年生は、小学校から学習習慣が確立されていない生徒が多いと感じる。
数学	校内平均正答率は51.6%で、全国平均正答率の50.8%を上回っている。しかし、単元別に見た際に「関数」での正答率が全国平均正答率の53.7%に比べ、校内平均正答率は52.4%であった。若干の差ではあるが、今回の学力調査で唯一下回ってしまった。また、観点別正答率で見た際には、主体的に学習に取り組む態度で全国平均を1.6%下回っている。	関数は例年苦手な生徒が多く、特に2年次に学習する1次関数が苦手な生徒が多いという現状がある。主体的に学習に取り組む態度においては、習熟度別での学力差が大きく見られ、数学に対する意欲が低い生徒がいることが要因として考えられる。
社会	校内平均正答率は47.1%で、全国正答率52.4%を5.3ポイント下回っている。1学年では、「我が国の政治」及び「我が国の歴史」の領域で全国平均正答率を下回っている。また、「基礎」の問題の構内正答率が50.2%で全国正答率を6.6%も下回っている。小学校で学習する内容の理解が乏しい事が課題としてあげられる。	小学校段階での習得内容の引継ぎを上手く実施していく必要があるほか、基礎的な知識・技能の定着が乏しいため、知識を活用した思考・判断・表現力も低い。
理科	校内平均正答率は62.2%で、全国平均正答率の67.0%を4.8ポイント下回っている。物質・エネルギーにおいて、正答率が低くなる傾向がみられる。物理分野・地学分野に関連する単元において苦手意識をもっている生徒や理解できていない生徒が多いことが課題として挙げられる。	実物として捉えにくい分野での、思考力や捉え方を養うことができていない。また、大地のつくりと変化、水溶液の性質では、基本的な知識を定着させることができず、思考・判断・表現も定着できていない。
英語	校内の数値は、2・3年生で成長が著しく見られた。また、1年生でも英語が雄一全体の平均を上回った。しかし、与えられた情報に基づいて解答しているが、軽微な誤りがある準正答が36.6%、また、与えられた情報に基づいて解答しているが、三人称単数現在形の誤りがある誤答が6%見られた。	書くことに対し、授業でのより充実した活動が求められている。基礎知識を理解した上でALTを活用し、自分の考えや意見などを書いてまとめる場面を授業内で充実させる必要がある。

保健体育	調査結果から男女全学年東京都平均より1.2%以上上回っているが「持久力・筋持久力」を必要とする種目が低い傾向にある。男女とも共通した結果から、授業内で補強運動（腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット）を継続的に実施することが課題である。	運動部の部活動への所属人数の割合が少なくなっている。また、帰宅後など日常の運動機会の減少が主な要因と考える。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	漢字の読み書き、文法や語句に関する事項など、基礎・基本となる言語事項の正答率は70%を目標とする。
	数学	関数領域における理解度を高める。また、数学に対して苦手意識のある生徒の意欲を高めるための授業改善と教材の工夫を行う。以上のことにより、各全国平均を上回ることを目標とする。
	社会	学習してから時間が経過した範囲における、知識の保持を促す。進級した際に知識量が低下することを防ぐために、小テストによる習熟度チェックで無回答を5%以下にすることを目標にする。
	理科	各単元において、イメージを具体的に捉えることができるよう、図や動画を用いた指導を充実させ、全国平均を上回ることを目標にする。
	英語	アウトプットの充実に向けた活動のアップデートや、インプットの充実を行う。
	保健体育	体力測定の結果において、全体を下げず、握力は東京都平均以上目標とする。
②授業改善		マークシート方式の生徒アンケート、「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や授業評価等に基づく授業改善を行い、全教科で都の平均を上回ることを目標とする。
③家庭との連携		家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、「生徒の学習に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの各種データとクロスチェックの上、課題を明らかにする。また、個々の生徒のプロフィールを把握した上で適切な指導・助言を行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。 学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”“ややあてはまる”の合計が85%を越えることを目標とする。
④体力向上		新体力テストでは、全学年全国Tスコア50を目標とし、平均を超える取り組みとして、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合陸上、体育的行事との取組に関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	1年生は、文章を書くことに対する抵抗を減らすため、身近な題材で短文から文章を書く活動を多く取り入れていく。2年生は、文法の復習を丁寧に行い、少しずつ文法に対して苦手意識を取り除いていく。3年生は、日頃の漢字テストを継続するとともに、読解問題に取り組んでいく。
算数・数学	関数領域において、定期的に生徒の知識・技能が身についているかどうかを小テストや演習を通して確認する。また、意欲が向上するような協同的な学びを意識した教材やわかりやすい授業改善に努める。
社会	単元終了時点で単元テスト、もしくは思考力の養成に寄与できる課題を実施する。3年間を通した社会科の見方・考え方を生徒に明確に伝えることで、継続的な知識や思考力の定着・養成を図る。
理科	イメージを具体的に捉えることができるよう、図や動画を用いた指導を充実させ、手を動かして理解させる機会を多く設ける。また、問題集などを活用して思考・判断・表現の育成を図る。
英語	ALT とのスピーキングテストや帯活動でのペアトークを充実させ、即興的な英語力の育成を図る。また、自分の考えなどを書かせる活動も積極的に行い、書く力の向上も目指す。
体育・保健体育	新体力テストでは、全学年全国平均以上を目標とし、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。
②授業改善	
取組Ⅰ	・学習指導要領を踏まえた年間計画を通して、教科等横断的・縦断的な教育計画を見直す。 ・各教科で学習した内容が他教科の学習に生かせるような横断的な取組を強化する。
取組Ⅱ	・確かな学力を身に付けさせるために、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るとともに、それを幅広く活用させる学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・5教科については、各授業、朝学習において基礎基本の定着となる取り組みを行う。
③家庭との連携	
取組Ⅰ	・家庭学習の習慣を定着させるために、適切な学習課題を工夫し、関する家庭への啓発を継続して進める。 ・三者面談を行い、家庭との連携を深め、生徒一人一人に応じた指導・助言を行う。
取組Ⅱ	・毎日、取り組んでいるデイリーライフや学校だより、学年通信やテトルを通して、家庭との連絡を密にし、学校で行われている教育活動を密に伝える。 ・運動会、文化祭の案内や、PTA バレーボールの参加を通じて学校への理解を深める。
④体力向上	
取組Ⅰ	・授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行い、生徒の基本的な運動能力の向上を行う。
取組Ⅱ	・昼休みに主体的に活動するための校庭・体育館の開放。委員会活動における運動の活動や学年ごと行うスポーツ大会を通して、運動に親しむ態度を育む。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	1年生は、短文から文章を書く活動を多く取り入れ、作文をすることに慣れた。2年生は、文法の復習を丁寧に行い、定期考査の文法問題の得点が全体的に上がった。3年生は、日頃の漢字テストを継続するとともに、読解問題に取り組み、漢字の読み書き能力や読解力が向上した。	どの学年においても、特に下位層の生徒の意欲、基礎的な知識、自分の考えをもって表現する力の定着が課題である。個に応じた指導と、主体的に学習に取り組む態度の評価の一体化を目指す。
	算数・数学	関数領域において、基本事項を定着させるとともに、身のまわりの事象と結びつけること（レポート作成など）で理解を深めることができた。	関数領域に限らず、思考力・判断力・表現力等の育成に個人差が見られる。授業内で学び合い活動や数学的活動を取り入れるとともに、小テストやレポート等に取り組みさせる。
	社会	単元末に小テストや、レポート、発表などの課題を実践する事で、知識及び思考力や表現力の育成につなげる事が出来た。	他者の発表や考えを踏まえて、自己の発表や考えを自己調整できるような取組みが必要である。
	理科	演習問題や小テストを細かく行ったことで、知識の定着ができた。	実験計画や発表を通し、思考・判断・表現を行う時間を多く設ける必要がある。
	英語	即興的な会話をアウトプットにおきながら行った結果、話すことへの抵抗や力はとても高くなった。	文字にして書く力が、話す力に追いつかなくなっているため、書く力の演習も充実させる。
	体育・保健体育	準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせ主運動の習得ができた。	主運動に個人差が見られる。先を見通した計画や学び合い活動を積極的に取り組ませる。
②授業改善		本年度よりの研究テーマである「生徒が意思を持つ単元計画」にむけて授業改善を行い、生徒の主体性向上を図った。	次年度も継続して各教科で単元計画の見直しを行い生徒の主体性向上を目指す。
③家庭との連携		定期考査やサポートテストの結果を用いて三者面談を通じて家庭との連携を図り、学習力向上に向けたアドバイスをを行った。	学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”“ややあてはまる”の合計が約70%だったので評価についての説明を保護者会やホームページを通じてより透明性を持って説明していく。
④体力向上		身体を動かすことに主体的に取り組むことができた。	継続的に身体を動かす機会を設定して体力向上へ繋げる。